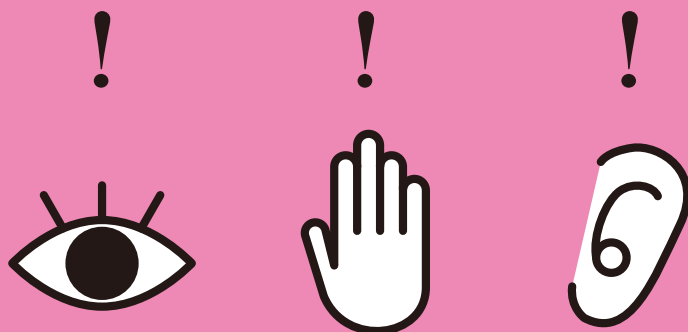




特集「ご家族も一緒に！」

在宅 フィジカルアセスメント

在宅療養が長い利用者さんでは、アセスメントもどこかマンネリ化しがちに。

「はい大丈夫、いつもどおり」と異変のサインを見逃していませんか？

合併症や急変などのリスクは必ず潜在し、

つねに本人・家族はその不安を心のどこかに抱いています。

そうした異変に予防的に関わり、早期に対応するには、

「変化」にいちはやく気づかなければなりません。

そのためには、「いつもどおり（変化なし）」に根拠を与え、

「いつもと違う（変化あり）」に具体性を与える。攻めのフィジカルアセスメントが必要で、

そこで本特集では、4つの状態別に、「私は何をどう意識して観察しているのか」、

現場の視点を開陳していただきました。

そこに共通して見えてきたのは、医療者による四六時中のモニタリングができない在宅で、

いかに「ご家族」に関わり、それによって不安もリスクも軽減するのか、ということ。

「生命」も「生活」も支えるフィジカルアセスメントの視点から、山内豊明医師のアドバイスも！

「Dr. 山内's EYES」欄のマークは
『フィジカルアセスメントガイドブック——目と手と耳でここまでわかる 第2版』
(山内豊明著、医学書院、2011)の頁数を表わしています。